（別紙4）　　令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3671700254		
法人名	社会福祉法人　健祥会		
事業所名	グループホーム　礼あり優あり		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町麻植塚字向麻山西196-1		
自己評価作成日	令和3年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所は国道192号線から100m程、南に位置した閑静な場所に立地しており、最寄りの駅までは2キロ、近隣には内科、歯科、皮膚科等があり便利な生活環境にあります。
当事業所では事業所理念に基づき、個々のニーズに対応し、清掃、洗濯、調理など生活リハビリ等を中心に一人ひとりの役割づくりに繋げながら、馴染みの関係づくり及び家庭的な環境を大切にしております。入居者を中心としたお菓子づくりや季節の干し芋づくり家庭菜園なども楽しまれるなど、生きがい作りに繋げています。
近隣の老人保健施設や協力医療機関などとも連携を行い、安心・安全な生活が継続できるよう、事業所、法人全体で支える体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所では、利用者一人ひとりの思いや生活等に寄りそい、本人のやりたいことやできることを引き出す支援に取り組んでいる。利用者と一緒に、畑で野菜を収穫したり、買い物や調理をしたりして、生活のなかで役割を持つことができるようにしている。入浴支援については、本人の希望に応じて、夜間帯でも入浴できるよう柔軟に支援している。また、事業所は、地域との交流も大切に捉えている。地元の祭りにスタッフとして職員が参加するなど、事業所自体が地域の一員として活動している。新型コロナウイルス感染症の流行下においては、インターネット等を活用し、地域のボランティアによるハーモニカ演奏を鑑賞するなど、地域とのつながりを継続できるよう工夫している。さらに、家族等の要望にあわせて、ガラス越しでの面会やオンライン面会を行うなど、利用者や家族等の安心につなげている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和を行い、管理者を含め職員間で理念を共有している。職員会議にて理念が現状に適したものか話合いの機会を設ける等、常にケアの原点としての意識を持ち、実践に繋げれるような体制を築いている。	事業所では、法人理念にもとづく独自の理念を掲げている。理念の実現に向けて、職員間で話しあい、指針等を定めている。また、ユニットごとに方針を掲げ、定期的に見直すことで、職員間での共有化を図りつつ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行前は地域の祭りや文化際に作品を出展したり、現在も地域の一員である自覚を持つように地域清掃などは継続して行っている。ボランティアより手作りマスクをもらう等、良好な関係が継続できている。	事業所は、地域の祭に参加するなどして、地域との交流を図っている。感染症（コロナ等）の流行下においても、地域の清掃活動などは、継続して取り組んでいる。また、地域住民から野菜や果物の差し入れを受けるなど、関係性が途切れることのないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症流行前は地域の老人会の方々に、認知症に関する講座や介護予防教室の開催を通して支援の方法を広く伝えることができている。実習生の受け入れも行い、認知症についての学びの場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は感染症の流行下により集合しての会議は開催できていないが、入居者の生活の様子や事業所の近況をまとめた書類を各委員に直接手渡し説明を行い、その場で意見を徴収し、サービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者家族や民生委員、婦人会、市の担当者、第三者委員などの出席を得ている。感染症の流行に伴い、各委員のもとへ書面を届け、直接意見を得るなど、工夫している。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用実績報告や介護認定の手続きの際に状況の報告を行っている。運営推進会議の開催や入居者の課題について相談を行うなど連携を図ることにより助言や協力を得られるよう取り組んでいる。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所や利用者の現況等について報告し、助言を得ている。感染症の流行下においても、会議の開催方法等について相談・検討するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修会の開催により、法令順守の徹底や拘束の弊害についての理解を深めている。委員会では事業所内を巡回し、その場で疑問点や改善事項を検討するなど拘束に対する意識を高めている。	事業所では、定期的に、身体拘束に関する委員会や研修会などを開催し、職員間での周知・徹底を図っている。利用者家族等にも、身体拘束についての考え方について説明している。日中は玄関を開放し、拘束感のない自由な暮らしに向けて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行い、話し合うことで虐待防止への意識を高めている。また、不適切な言葉遣いから虐待に繋がらないように職員間で注意ができるような関係性の構築に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、制度について研修会を開催し、理解を深め、今後も必要時に活用できるように事業所全体で取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時には重要事項説明書について管理職者が丁寧に説明を行い理解、納得を得るようにしている。不安事がある時はその都度話を聞く体制を作るとともに、入居時には事故などのリスク説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族との関わりを大切にすることで意見が表に出やすい雰囲気作りに努めている。面会時には家族と話をするよう努めると共に苦情処理箱の設置やニーズ調査を実施し意見を聴く体制も継続して行っている	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの意見や意向等を把握している。感染症の流行にともない、家族等の来訪が難しいなかでも、電話で連絡を取ったり、ブログを更新したりして、意見の把握に努めている。出された意見等について検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて職員からの意見や提案を聞く場を設けている。また定期的に管理者は職員と個別で対話を行いその場で出た提案などを運営に反映させるよう努めている。	管理者は、毎月の職員会議などの際に、職員からの意見や提案等を聞き取っている。定期的に、個別面談も行っている。また、職員から代表者へメールで相談する仕組みを整備するなど、柔軟に意見を取り入れ、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて職員の評価体制を構築し、向上心を持つようにキャリアアップ制度を設けている。職員各自、目標管理シートを作成するなど、職環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でキャリアパス制度を構築し、段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。職員が研修の参加や資格取得を申し出しやすい環境づくりを行い、知識、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設との交流や、吉野川市地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し他の事業所職員と交流を持つことで情報交換を行うよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった際は、見学に来て頂き、事業所の説明を実施。入居前には本人、家族と面会し、不安や要望を把握し、サービスについての説明を行う事で、安心を確保出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の意向や希望をしっかりと伺い、事業所としての対応を説明している。今までの苦労や家族の意向を理解した上で対応し、信頼関係を構築するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時に心身の状態を見極め本人にとって、どのようなサービスが適切であるのか、多方面から提案を行っている。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けれる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはしてもらい、できないことは一緒に行うなど本人と職員が共に支えあえる関係づくりに努めている。お互いに声をかけ合い、励ましあえる場面を作る等、おだやかに生活ができるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所だよりなども活用し、利用者・家族・事業所とのコミュニケーションを大切にし、共に本人を支えていける体制づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症流行前は馴染みの場所や付き合いが継続できるように家族と連携し、外出支援を行っている。馴染みの美容店等にも出向いて行くなど、地域との交流が継続できるように支援している。	事業所では、家族等の協力を得て、馴染みの場所へ出かけるなど、関係性の継続に向けて支援している。感染症等の流行下においては、電話や手紙を活用して友人・知人に連絡するなど、関係が途切れることのないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がまずは個々の状況把握および入居者同士の関係性についても把握し、座席などの工夫やユニット間の交流等を行い、いつも笑顔で明るい雰囲気の中、関わりあえるように支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所での暮らしがどのようなものであったのか、情報を提供し、以前と変わらない生活が送れるよう、最大限働きかけを行う。また、法人内の施設を利用してもらうことで退居後も交流を続けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わる中で、思いや意向を確認したり、会話の一つひとつからその方の関心のあることを拾いだし、何が最良なのか担当者会や面会時に家族を交えて検討している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取っている。家族等からの情報も得つつ、ユニットごとに話しあい、本人本位の暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、担当ケアマネや地域の人たちから情報を得ている。本人がこれまでと同じような生活が継続できるよう事業所でのサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で、できることを見つけ作品作り・レクリエーションに取り組み、その人らしく生活できるよう努めている。また毎日のバイタル測定などで体調を把握し、その方の状態に応じた過ごし方を提案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンス時は本人・家族・関係者・職員で意向や意見を確認し、介護計画に反映している。また毎月のモニタリングや3か月の評価を通じて、現状に即した計画になるように話合い決定している。	事業所では、利用者や家族等の意見や意向を踏まえた介護計画書を作成している。各関係機関の協力を得つつ、生活リハビリや口腔ケアなど、利用者一人ひとりの状況にあわせた計画を立てている。定期的なモニタリングや随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護支援経過、モニタリングを作成している。職員間で申し送りノート等で情報を共有している。それを基に評価し今後の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化（重度化等）がある入居者ができるだけ事業所内で生活できるよう支援している。本人、家族の状況に応じて通院・協力病院への受診、特養・老健の紹介など個々に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症流行前は併設施設への働きかけや、運営推進委員、民生委員、ボランティアへの協力を呼びかけている。また、ボランティア受け入れの際は剣の間を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し、かかりつけ医を決定し、家族と協力し、専門医の通院の支援も行っている。かかりつけ医とは普段から連携をとるよう努め、助言等、適切に医療が受けられる体制を整えている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関や地域の歯科医、歯科衛生士などの往診・訪問もある。他の専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。緊急時に対応可能な体制も整備し、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理について看護師を配置し、いち早く異常に気づけるよう努めている。また介護職・看護職で連携し、常時入居者の健康管理や受診等の支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。入院中の状態把握や退院時にいては連携を図り、安心して事業所で生活が継続できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には事業所として、できることの説明を行い、本人や家族の意向に沿いながら、かかりつけ医との連携を図り、対応している。看取り介護の研修実施や重度化の指針をもとに、家族と話し合いをする場を設け理解を得るよう努めている	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、協力医療機関等と連携し、チームで支援に取り組んでいる。定期的に、看取りに関する研修も行い、サービスの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会では指針やマニュアルを確認、事故が起こった際には、検討委員会を開催し、再発防止に努めている。急変や事故発生時に迅速に行動がとれるよう、緊急時対応の研修を通して危機管理に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食の確保や消防署の協力のもと、入居者と共に避難訓練（BCP）を実施。感染流行前は地域住民も参加し協力体制を図っている。職員には消防設備や避難経路、危険水位の確認について指導を行っている。	年2回、消防署や地域住民等の協力を得つつ、避難訓練を実施している。日中・夜間の火災や水害を想定し、垂直避難等を実施している。また、災害時に備えて、BCPの策定や備蓄品の整備等も行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いを徹底している。普段の何気ない会話でも本人のプライバシー及び尊厳を損なわないような対応や言葉がけが実施できるよう取り組んでいる。	職員は、利用者一人ひとりを“人生の先輩”として捉え、誇りやプライバシーなどに配慮した支援に努めている。毎朝、利用者自身に着る服を選んでもらうなど、自己決定を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組んでいる。希望や願いを把握できるように普段の会話の中から聞き出す工夫を行っている。また行動や仕草から希望や表現が把握できるよう関わる時間を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個性に合わせた生活の流れを理解、職員間で共有し、業務優先ではなく、日々の体調や状態に合わせた個別の支援をできるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者にお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや家族への協力などの支援を行っている。また更衣の場面ではその方らしい身だしなみができるよう一緒に洋服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を把握し一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。野菜の収穫も一緒に行うことで食事への関心を高めたり、美味しく食べれるような工夫に努めている。	事業所では、三食、手作りの食事を提供している。利用者と一緒に献立を考えたり、買い物や調理をしたりしている。菜園で収穫した野菜の活用や干し柿・干し芋づくりなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、摂取量の確認を行っている。水分補給では、水分ゼリーや好みの飲み物を摂取して頂き、栄養バランスのとれた献立や個々の状態に応じた食事形態なども工夫し摂取量の確保に向けて取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っており、定期的に歯科衛生士による口腔ケア指導により実践に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を通して直近の状況、パターンを把握し、個々に応じた対応（トイレ誘導）について検討している。またおむつゼロはもちろん、布パンツ着用が継続できるよう、ユニット全体で情報を共有し取り組んでいる。	事業所では、排泄記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の心身状況に応じて、適切なトイレ誘導を心掛け、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や活動量のアップ、献立の工夫により自然排便できるように取り組んでいる。また食事に食物繊維粉を使用するなど下剤に頼らない取り組みも併せて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境を提供している。難色を示す方には言葉がけや時間帯を変える等、接し方の工夫を行っている。状況に応じて夜間帯に足浴を行う工夫もしている。	事業所では、週3回は入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりの希望にあわせて、夜間の入浴や同性介助なども行っている。また、ゆず湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等をすることで生活リズムが安定できるような時間を過ごしてもらうことで安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。また処方の変更があった場合は看護師とも連携し状態観察を行うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て入居者本人の嗜好の把握や、できる能力及びこれまでの生活歴に応じて暮らしの中で役割が持てるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染流行前は家族とも協力しながら行きたいところに、お買物や外食、ドライブなどを行っている。現状は屋外への散歩や事業所周辺の花畑などに散歩に行くなど、気分転換ができるような支援を行っている。	事業所では、家族等の協力を得つつ、買い物や外食、ドライブなど、利用者の希望に応じた外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、近隣を散歩したり、近隣の運動場でゲートボールを観戦したりして、外出の機会を設けている。安全面に配慮しつつ、少人数で買い物に出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価　剣の間 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について理解ができる人には、家族の理解、協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などの希望のある方は話ができるよう対応している。荷物などが届いた場合は本人がお礼の電話をかけたり、ハガキのやり取りができるよう支援している。現在はオンライン面会の環境整備も整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。季節の花を生けたり、使いやすい家具をそろえている。ハード面では吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっており、光や音などにも配慮しストレスなく生活できるよう努めている。	共用空間は明るく、清潔を保っている。壁面には、利用者と一緒に制作した季節の飾り付けを行うなど、四季を感じることができるようにしている。また、アクリル板の設置や定期的な換気などにより、感染症対策にも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や食堂・ソファーで、居心地の良くつろげる空間を作っている。テレビを見たり音楽を聞いたりしながら思い思いの時間を過ごせれるような環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの品について説明を行うことで、家族の写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ、馴染みの生活スタイルに合わせた部屋ができるよう配慮を行っている。	居室は、洋室と和室があり、利用者の希望や心身状況等に応じて選択できるようにしている。本人の使い慣れた家具や写真、ポスターなどを持ち込んでもらうことで、その人らしく暮らすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険となるものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。自分の居室が分かりやすいような工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和を行い、管理者を含め職員間で理念を共有している。職員会議にて理念が現状に適したものか話合いの機会を設ける等、常にケアの原点としての意識を持ち、実践に繋げれるような体制を築いている。	朝礼時に唱和を行い、管理者を含め職員間で理念を共有している。職員会議にて理念が現状に適したものか話合いの機会を設ける等、常にケアの原点としての意識を持ち、実践に繋げれるような体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行前は地域の祭りや文化際に作品を出展したり、現在も地域の一員である自覚を持つように地域清掃などは継続して行っている。ボランティアより手作りマスクをもらう等、良好な関係が継続できている。	感染症流行前は地域の祭りや文化際に作品を出展したり、現在も地域の一員である自覚を持つように地域清掃などは継続して行っている。ボランティアより手作りマスクをもらう等、良好な関係が継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症流行前は地域の老人会の方々に、認知症に関する講座や介護予防教室の開催を通して支援の方法を広く伝えることができている。実習生の受け入れも行い、認知症についての学びの場となっている。	感染症流行前は地域の老人会の方々に、認知症に関する講座や介護予防教室の開催を通して支援の方法を広く伝えることができている。実習生の受け入れも行い、認知症についての学びの場となっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は感染症の流行下により集合しての会議は開催できていないが、入居者の生活の様子や事業所の近況をまとめた書類を各委員に直接手渡し説明を行い、その場で意見を徴収し、サービス向上に活かしている。	今年度は感染症の流行下により集合しての会議は開催できていないが、入居者の生活の様子や事業所の近況をまとめた書類を各委員に直接手渡し説明を行い、その場で意見を徴収し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用実績報告や介護認定の手続きの際に状況の報告を行っている。運営推進会議の開催や入居者の課題について相談を行うなど連携を図ることにより助言や協力を得られるよう取り組んでいる。	利用実績報告や介護認定の手続きの際に状況の報告を行っている。運営推進会議の開催や入居者の課題について相談を行うなど連携を図ることにより助言や協力を得られるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修会の開催により、法令順守の徹底や拘束の弊害についての理解を深めている。委員会では事業所内を巡回し、その場で疑問点や改善事項を検討するなど拘束に対する意識を高めている。	委員会や研修会の開催により、法令順守の徹底や拘束の弊害についての理解を深めている。委員会では事業所内を巡回し、その場で疑問点や改善事項を検討するなど拘束に対する意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行い、話し合うことで虐待防止への意識を高めている。また、不適切な言葉遣いから虐待に繋がらないように職員間で注意ができるような関係性の構築に努めている。	研修を行い、話し合うことで虐待防止への意識を高めている。また、不適切な言葉遣いから虐待に繋がらないように職員間で注意ができるような関係性の構築に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、制度について研修会を開催し、理解を深め、今後も必要時に活用できるように事業所全体で取り組んでいる。	成年後見人制度を利用されている方もおり、制度について研修会を開催し、理解を深め、今後も必要時に活用できるように事業所全体で取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時には重要事項説明書について管理職者が丁寧に説明を行い理解、納得を得るようにしている。不安事がある時はその都度話を聞く体制を作るとともに、入居時には事故などのリスク説明を行い同意を得ている。	締結時には重要事項説明書について管理職者が丁寧に説明を行い理解、納得を得るようにしている。不安事がある時はその都度話を聞く体制を作るとともに、入居時には事故などのリスク説明を行い同意を得ている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族との関わりを大切にすることで意見が表に出やすい雰囲気作りに努めている。面会時には家族と話をするよう努めると共に苦情処理箱の設置やニーズ調査を実施し意見を聴く体制も継続して行っている	入居者や家族との関わりを大切にすることで意見が表に出やすい雰囲気作りに努めている。面会時には家族と話をするよう努めると共に苦情処理箱の設置やニーズ調査を実施し意見を聴く体制も継続して行っている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて職員からの意見や提案を聞く場を設けている。また定期的に管理者は職員と個別で対話を行いその場で出た提案などを運営に反映させるよう努めている。	職員会議にて職員からの意見や提案を聞く場を設けている。また定期的に管理者は職員と個別で対話を行いその場で出た提案などを運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて職員の評価体制を構築し、向上心を持つようにキャリアアップ制度を設けている。職員各自、目標管理シートを作成するなど、職環境の整備に努めている。	法人にて職員の評価体制を構築し、向上心を持つようにキャリアアップ制度を設けている。職員各自、目標管理シートを作成するなど、職環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でキャリアパス制度を構築し、段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。職員が研修の参加や資格取得を申し出しやすい環境づくりを行い、知識、技術の向上を図っている。	法人でキャリアパス制度を構築し、段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。職員が研修の参加や資格取得を申し出しやすい環境づくりを行い、知識、技術の向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設との交流や、吉野川市地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し他の事業所職員と交流を持つことで情報交換を行うよう努めている。	法人内の施設との交流や、吉野川市地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し他の事業所職員と交流を持つことで情報交換を行うよう努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった際は、見学に来て頂き、事業所の説明を実施。入居前には本人、家族と面会し、不安や要望を把握し、サービスについての説明を行う事で、安心を確保出来る関係づくりに努めている。	相談があった際は、見学に来て頂き、事業所の説明を実施。入居前には本人、家族と面会し、不安や要望を把握し、サービスについての説明を行う事で、安心を確保出来る関係づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の意向や希望をしっかりと伺い、事業所としての対応を説明している。今までの苦労や家族の意向を理解した上で対応し、信頼関係を構築するよう努めている。	本人、家族の意向や希望をしっかりと伺い、事業所としての対応を説明している。今までの苦労や家族の意向を理解した上で対応し、信頼関係を構築するよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時に心身の状態を見極め本人にとって、どのようなサービスが適切であるのか、多方面から提案を行っている。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けれる体制に努めている。	申込時に心身の状態を見極め本人にとって、どのようなサービスが適切であるのか、多方面から提案を行っている。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けれる体制に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が楽しむことのできる空間作りを目指し、コミュニケーションを重ねながら関係性を築けるように努めている	入居者と職員が信頼できる関係性を築けるよう、日々のコミュニケーションを大切にし、暮らしを共にするといった意識を高めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所だよりなども活用し、家族へ本人の近況を伝える等、家族・事業所間のコミュニケーションを図ることで、共に本人を支えていける体制づくりに取り組んでいる。	毎月の事業所だよりや電話連絡にて本人・家族・事業所間での情報を共有し、共に本人を支えていける体制づくりに取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症流行前は馴染みの場所や付き合いが継続できるように家族と連携し、外出支援を行っている。馴染みの美容店等にも出向いて行くなど、地域との交流が継続できるように支援している。	感染症流行前は馴染みの場所や付き合いが継続できるように家族と連携し、外出支援を行っている。馴染みの美容店等にも出向いて行くなど、地域との交流が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況把握および入居者同士の関係性についても把握し、状況に応じたレクリエーションなどを工夫するなど、いつも笑顔で明るい雰囲気の中、関わりあえるように支援をしている。	職員がまずは個々の状況把握および入居者同士の関係性についても把握し、座席などの工夫や、洗濯たたみや料理なども一緒に楽しめ、お互いを支えあえるように務めている。	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所での暮らしがどのようなものであったのか、情報を提供し、以前と変わらない生活が送れるよう、最大限働きかけを行う。また、法人内の施設を利用してもらうことで退居後も交流を続けている。	事業所での暮らしがどのようなものであったのか、情報を提供し、以前と変わらない生活が送れるよう、最大限働きかけを行う。また、法人内の施設を利用してもらうことで退居後も交流を続けている。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わる中で、思いや意向を確認したり、会話の一つひとつからその方の関心のあることを拾いだし、何が最良なのか担当者会や面会時に家族を交えて検討している。	日々の生活の中で表情を読み取り、本人の思いを推測したり、ともに確認しあう等、職員本位にならず本人の思いに添えるよう努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、担当ケアマネや地域の人たちから情報を得ている。本人がこれまでと同じような生活が継続できるよう事業所でのサービスに繋げている。	入居時にはこれまでの暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、担当ケアマネや地域の人たちから情報を得ている。本人がこれまでと同じような生活が継続できるよう事業所でのサービスに繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で、できることを見つけ作品作り・レクリエーションに取り組み、その人らしく生活できるよう努めている。また毎日のバイタル測定などで体調を把握し、その方の状態に応じた過ごし方を提案している。	日々の生活で、できることを見つけ作品作り・レクリエーションに取り組み、その人らしく生活できるよう努めている。また毎日のバイタル測定などで体調を把握し、その方の状態に応じた過ごし方を提案している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンス時は本人・家族・関係者・職員で意向や意見を確認し、介護計画に反映している。また毎月のモニタリングや3か月の評価を通じて、現状に即した計画になるように話合い決定している。	アセスメント、カンファレンス時は本人・家族・関係者・職員で意向や意見を確認し、介護計画に反映している。また毎月のモニタリングや3か月の評価を通じて、現状に即した計画になるように話合い決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護支援経過、モニタリングを作成している。職員間で申し送りノート等で情報を共有している。それを基に評価し今後の介護計画に活かしている。	個別記録、介護支援経過、モニタリングを作成している。職員間で申し送りノート等で情報を共有している。それを基に評価し今後の介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化（重度化等）がある入居者ができるだけ事業所内で生活できるよう支援している。本人、家族の状況に応じて通院・協力病院への受診、特養・老健の紹介など個々に合わせて柔軟に対応している。	状態変化（重度化等）がある入居者ができるだけ事業所内で生活できるよう支援している。本人、家族の状況に応じて通院・協力病院への受診、特養・老健の紹介など個々に合わせて柔軟に対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症流行前は併設施設への働きかけや、運営推進委員、民生委員、ボランティアへの協力を呼びかけている。	感染症流行前は併設施設への働きかけや、運営推進委員、民生委員、ボランティアへの協力を呼びかけている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し、かかりつけ医を決定し、家族と協力し、専門医の通院の支援も行っている。かかりつけ医とは普段から連携をとるよう努め、助言等、適切に医療が受けられる体制を整えている。	本人、家族の意向を確認し、かかりつけ医を決定し、家族と協力し、専門医の通院の支援も行っている。かかりつけ医とは普段から連携をとるよう努め、助言等、適切に医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理について看護師を配置し、いち早く異常に気づけるよう努めている。また介護職・看護職で連携し、常時入居者の健康管理や受診等の支援を行えるようにしている。	入居者の健康管理について看護師を配置し、いち早く異常に気づけるよう努めている。また介護職・看護職で連携し、常時入居者の健康管理や受診等の支援を行えるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。入院中の状態把握や退院時にいては連携を図り、安心して事業所で生活が継続できるよう支援している。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。入院中の状態把握や退院時にいては連携を図り、安心して事業所で生活が継続できるよう支援している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には事業所として、できることの説明を行い、本人や家族の意向に沿いながら、かかりつけ医との連携を図り、対応している。看取り介護の研修実施や重度化の指針をもとに、家族と話し合いをする場を設け理解を得るよう努めている	入居時には事業所として、できることの説明を行い、本人や家族の意向に沿いながら、かかりつけ医との連携を図り、対応している。看取り介護の研修実施や重度化の指針をもとに、家族と話し合いをする場を設け理解を得るよう努めている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会では指針やマニュアルを確認、事故が起こった際には、検討委員会を開催し、再発防止に努めている。急変や事故発生時に迅速に行動がとれるよう、緊急時対応の研修を通して危機管理に努めている。	委員会では指針やマニュアルを確認、事故が起こった際には、検討委員会を開催し、再発防止に努めている。急変や事故発生時に迅速に行動がとれるよう、緊急時対応の研修を通して危機管理に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食の確保や消防署の協力のもと、入居者と共に避難訓練（BCP）を実施。感染流行前は地域住民も参加し協力体制を図っている。職員には消防設備や避難経路、危険水位の確認について指導を行っている。	非常食の確保や消防署の協力のもと、入居者と共に避難訓練（BCP）を実施。感染流行前は地域住民も参加し協力体制を図っている。職員には消防設備や避難経路、危険水位の確認について指導を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いを徹底している。普段の何気ない会話でも本人のプライバシー及び尊厳を損なわないような対応や言葉がけが実施できるよう取り組んでいる。	研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いを徹底している。普段の何気ない会話でも本人のプライバシー及び尊厳を損なわないような対応や言葉がけが実施できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組んでいる。希望や願いを把握できるように普段の会話の中から聞き出す工夫を行っている。また行動や仕草から希望や表現が把握できるよう関わる時間を増やしている。	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組んでいる。希望や願いを把握できるように普段の会話の中から聞き出す工夫を行っている。また行動や仕草から希望や表現が把握できるよう関わる時間を増やしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個性に合わせた生活の流れを理解、職員間で共有し、業務優先ではなく、日々の体調や状態に合わせた個別の支援をできるように努めている。	入居者一人ひとりの思いや生活スタイルを大切にし、柔軟な対応ができるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の更衣の際は、その方の個性や、好みを聞き入れながらおしゃれができるように支援を行っている。	入居者にお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや家族への協力などの支援を行っている。また更衣の場面ではその方らしい身だしなみができるよう一緒に洋服を選んでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を把握し一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。野菜の収穫も一緒に行うことで食事への関心を高めたり、美味しく食べれるような工夫に努めている。	入居者の能力を把握し一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。野菜の収穫も一緒に行うことで食事への関心を高めたり、美味しく食べれるような工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、摂取量の確認を行っている。水分補給では、水分ゼリーや好みの飲み物を摂取して頂き、栄養バランスのとれた献立や 個々の状態に応じた食事形態なども工夫し摂取量の確保に向けて取り組んでいる。	日々、摂取量の確認を行っている。水分補給では、水分ゼリーや好みの飲み物を摂取して頂き、栄養バランスのとれた献立や 個々の状態に応じた食事形態なども工夫し摂取量の確保に向けて取り組んでいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っており、定期的に歯科衛生士による口腔ケア指導により実践に繋げている。	毎食後、本人の能力に応じて支援を行い、できる範囲はご自分でして頂き、不足部分を職員が行っている。また自発的にケアができるような言葉がけを行い、清潔保持が保てるように努めている	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を通して直近の状況、パターンを把握し、個々に応じた対応(トイレ誘導)について検討している。またおむつゼロはもちろん、布パンツ着用が継続できるよう、ユニット全体で情報を共有し取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有することで、自立に向けた支援を職員全員で考え取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や活動量のアップ、献立の工夫により自然排便できるように取り組んでいる。また食事に食物繊維粉を使用するなど下剤に頼らない取り組みも併せて行っている。	水分摂取の確保や活動量のアップ、献立の工夫により自然排便できるように取り組んでいる。また食事に食物繊維粉を使用するなど下剤に頼らない取り組みも併せて行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体的に一般浴槽での入浴が困難な方については機械浴にて安心、安全に入浴ができるように支援を行っている。	家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境を提供している。難色を示す方には言葉がけや時間帯を変える等、接し方の工夫を行っている。状況に応じて夜間帯に足浴を行う工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等をすることで生活リズムが安定できるような時間を過ごしてもらうことで安眠に繋げている。	日中、散歩や体操等をすることで生活リズムが安定できるような時間を過ごしてもらうことで安眠に繋げている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。また処方の変更があった場合は看護師とも連携し状態観察を行うよう努めている。	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。また処方の変更があった場合は看護師とも連携し状態観察を行うよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識が持てるような言葉がけを心がけ支援を行っている。洗濯たたみやテーブル拭きを日課として自発的に実施できるよう支援している。	入居者の能力に合わせてできることをして頂き、日々の生活に張り合いが持てるように支援をしている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染流行前は家族とも協力しながら行きたいところに、お買物や外食、ドライブなどを行っている。現状は屋外への散歩や事業所周辺の花畑などに散歩に行くなど、気分転換ができるような支援を行っている。	感染流行前は家族とも協力しながら行きたいところに、お買物や外食、ドライブなどを行っている。現状は屋外への散歩や事業所周辺の花畑などに散歩に行くなど、気分転換ができるような支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価　川の間 実践状況	自己評価　渦の間 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について理解ができる人には、家族の理解、協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金について理解ができる人には、家族の理解、協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などの希望のある方は話ができるよう対応している。荷物などが届いた場合は本人がお礼の電話をかけたり、ハガキのやり取りができるよう支援している。現在はオンライン面会の環境整備も整えている。	電話などの希望のある方は話ができるよう対応している。荷物などが届いた場合は本人がお礼の電話をかけたり、ハガキのやり取りができるよう支援している。現在はオンライン面会の環境整備も整えている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。季節の花を生けたり、使いやすい家具をそろえている。ハード面では吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっており、光や音などにも配慮しストレスなく生活できるよう努めている。	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。季節の花を生けたり、使いやすい家具をそろえている。ハード面では吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっており、光や音などにも配慮しストレスなく生活できるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や食堂・ソファーで、居心地の良くつろげる空間を作っている。テレビを見たり音楽を聞いたりしながら思い思いの時間を過ごせれるような環境作りに努めている。	食堂・ソファーで、居心地の良くつろげる空間を作っている。テレビを見たり音楽を聞いたりしながら思い思いの時間を過ごせれるような環境作りに努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの品について説明を行うことで、家族の写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ、馴染みの生活スタイルに合わせた部屋ができるよう配慮を行っている。	入居時には馴染みの品について説明を行うことで、家族の写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ、馴染みの生活スタイルに合わせた部屋ができるよう配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険となるものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。自分の居室が分かりやすいような工夫を行っている。	環境整備は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険となるものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。自分の居室が分かりやすいような工夫を行っている。	